

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	共生型放課後等デイサービスわんぱくはうす平井園			
○保護者評価実施期間	2025年 8月 1日		～	2025年 9月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	2025年 8月 1日		～	2025年 9月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 10月 3日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	生活介護事業所との共生型のため、日頃より一緒に活動することも多く、幅広い年齢の方と関わりを持つことができる。 また、環境の変化に敏感な方が、生活介護へスムーズに移行することができる	個別での活動、共生型として一緒に行う活動を組み合わせ日々過ごす中で、仲間意識や異年齢の方との関わりを深め、将来を見据えた環境づくりに尽力している。	学校卒業後も、環境を変えることなく、安心目つスムーズな移行をめざし、利用される方の将来を見据え継続した支援につなげていく。
2	個別支援、個別対応の充実	1日の利用者数が少人数のため、職員が一人一人と密に関わりを持つことができ、個々に応じた個別活動・支援目標に向けてのプログラムを組み入れ日々取り組んでいる。	職員体制上、放デイに関わる職員が偏るなかでも、共生型として支援に携わる職員全員が個々の利用者との関わりを深めよりそれぞれの支援の在り方を全員が周知できるよう配置を検討していく。
3	事業所の立地面において、屋外での活動を取り入れやすい	事業所の近隣には広々とした公園が隣接しており、安全に活動できる環境が備わっている。 また、敷地内でも身体を動かし遊べるスペースが確保でき、夏には、プールを設置。野菜や花を育てたり季節に応じた取り組みも実施している。	室内での活動、屋外での活動を組み合わせて、意思決定支援に重点をおき、児童と一緒にプログラムを立案し、幅広い活動を取り入れていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他事業所や地域の子どもたちと交流する機会がほとんどない	交流の場や機会をどのように設けたらよいか、交流できるイベント等の情報収集ができていない。	まずは、同法人の放デイやこども園と一緒に参加できる行事やイベントを検討する。また、現在行っている行事に地域の方を招待して参加してもらうなど今後の検討課題とする。
2	外出やおでかけ行事が少ない	共生型であるため、日程調整・職員体制上困難である。	学校の長期休暇期間や生活介護事業が休所日に外出イベントの機会を設定する。 また、合同での外出行事の計画を検討する。
3	制度面の把握・理解	事業所における自己評価を行った結果より、現場職員が放課後等デイサービス事業における制度面の知識が弱い。管理者や児童発達支援管理責任者だけではなく支援に携わる職員が基本的な知識を周知しておく必要がある。	制度面について改めて事業所内で勉強会や研修を行い、定期的に職員全員で確認する時間を設ける。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 共生型放課後等デイサービスわんぱくはうす平井園

公表日 令和7年10月11日

利用児童数 9名

回収数 9名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	2	1			共有スペース内に放デイスペースを設け、必要時状況に応じて使い分けています。	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	5	2	1	1		法令で定められた職員配置基準を遵守しています。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9						
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7	2				毎日の清掃・消毒作業を徹底しています。また、活動に応じて配置換えができるように家具等の設置を行っています。	
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7	2				専門性や資質向上に向け、勉強会を実施したり、外部研修へ積極的に参加しています。	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8			1		5領域を踏まえた支援プログラムを基に、日々のプログラムを立案し、実施しています。	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9						
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8		1			計画の中で、個々に応じた個別支援+個々のニーズに応じた集団で行われる支援を組み入れ、日々の活動に反映しています。	
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7				2	・子どもの興味があることを学習につなげてあげている。	週2回、活動の立案・準備する時間を設けて、プログラム構成を行っています。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	2	2	2			あまり機会がありません。今後の検討課題とします。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9						
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	2	1	1			研修会の情報やお知らせなど知り得た情報をおたよりなどで配布しています。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	9						
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	2					困りごとや課題について共通理解を行い、一緒に負担を軽減できるように努めます。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7	2					常に子どもたちの意見を尊重し、保護者様の想いに寄り添う支援を行ってまいります。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	5	1	2	1			年に1度、同法人合同でご家族みんなで参加していただけるイベントをじっししています。ご家族、職員が交流できる機会にもなっています。
19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7	1			1		苦情解決窓口・担当者を設置しています。また、相談や困りごとなど保護者様が相談しやすい関係作り心掛けています。	

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7	2			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	9				
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6	2	1	・避難訓練の実施は確認している。	定期的な訓練の実施や報告の徹底、マニュアル等を保護者様に確認していただく機会を今後、検討してまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8		1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8	1			
	29	事業所の支援に満足していますか。	7	2		・放デイとして希望しているのが100%とは言えない。	共生型の中で放デイとしての取り組みや支援の充実をはかり、子どもたちが楽しくすごしていただけるよう努めます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		共生型放課後等デイサービスわんぱくはうす平井園			公表日		令和7年 10月 11日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4			3
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	2	法令で定められた職員配置基準を遵守。児童指導員を多く配置しています。	それぞれの事業スケジュールによって必要な職員配置の調整を行ってまいります。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	全室バリアフリー。生活環境は基本共有しているも、スペース内に児童スペースを設けて必要に応じて対応している。	情報伝達手段としてカードや写真を使用している視覚的支援を用いている。障がい特性に応じたツールを分析し、取り入れている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	3	毎日の清掃・感染症対策のための消毒を徹底。状況に応じて空間の確保ができるような配置にしています。	個別で集中できる環境の提供が難しいため、個室の使用方法や区画の設置など工夫が必要。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	4	児童スペースと共有スペースとして必要に応じて使用できる個室を設けている。	場面にに応じて用途を変更できる工夫が必要。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	2	会議内で、支援の状況や在り方、振り返り、改善につながる話し合いの場を設けています。	勤務形態上、参加できない職員は議事録を閲覧している。伝達方法を明確にし、多くの職員が参画できるよう工夫が必要。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	アンケートを実施、保護者様にご協力いただき結果集計し公表しています。業務改善につながるよう、話し合いの場を設けている。	ご意見をもとに、改善策を検討いたします。より良い支援につながるよう努めてまいります。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	毎朝のミーティングや職員会議を行い、意見交換や情報共有の場を設けている。	今後も職員全体で話し合いを行い、業務改善策について検討していきます。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7	第三者による外部評価は受けておりません。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	外部研修、内部研修、勉強会などスキルアップのための機会を設けている。また年に1回事業所合同研修会も実施している。	職員が自発的に参加したいと思える研修案内の提示や立案、研修に参加しやすい職場環境作りに尽力いたします。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	1	支援プログラムを作成し、公表しています。	目標に向けた幅広いプログラムを通して、楽しみながら様々な体験・経験ができる活動の提供をめざします。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6	1	アセスメントシートを活用し、モニタリングを行ったうえで個別面談を実施。ご本人の状況やご家族の意向を整理し、支援計画書を作成しています。	アセスメントを適切に行い、常にご本人及び保護者様のニーズに応じた支援計画を作成してまいります。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	1	直接支援に関わる職員によるモニタリングや意見を取り込み、状況の把握や目標に対する評価や課題を共有し、計画書に反映しています。	支援に関わる職員全員で取り組む体制づくりの強化、より意見交換できる時間を確保し、共通理解を深めれるよう徹底してまいります。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	1	ミーティングや会議の中で面談内容や計画書を職員間で共有し、支援の方向性を確認しています。	計画書に基づいた支援の提供・共通理解を徹底し、より良い支援につなげてまいります。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	日々の行動や様子を細かく記録し、個々に応じたコミュニケーションツールを使用し状況を確認しつつ、進めています。	お互いの理解を深めるための視覚的支援に重視し、実践の結果や分析を整理、また職員のスキルアップのための研修・知識向上をめざします。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1	5領域の視点を踏まえた計画の中で個別活動と集団活動を組み入れ、支援計画に反映しています。	管理者・児童発達支援管理責任者だけでなく職員全員が放課後等デイサービスガイドラインを理解したうえで支援ができるよう定期的に確認できる研修を設定します。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	週2回、支援担当チームがプログラム案を立案、準備する時間を設けて実施しています。	担当者だけでなく、支援に携わる職員全員が活動目的や内容をしっかり理解できるよう事前に確認できる時間を設けます。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	「製作」「学習」「運動」「体験」「ゲーム」など項目分けし、子どもたちにもわかりやすいように設定しています。	日課活動は継続し、「個別活動」「集団活動」を組み入れ、子どもたちが自分で選択する、自主的な活動を組み入れ工夫していきます。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	2	プログラム内で個々に応じた個別活動、個々のニーズに応じた集団活動を組み入れ取り組んでいます。	偏りなく双方の活動が提供できるようプログラムの充実化を図り、より良い支援につなげていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	毎朝、ミーティングを実施。プログラム予定や利用者さんの状況、連絡事項等、共有しています。	支援の明確化や役割分担の確認をしっかり行い、支援強化に尽力します。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	毎朝、利用時の振り返りを行い、職員全員が閲覧できるよう記録ファイルを作成している。ミーティング時に提示している。	支援終了後に振り返りの時間を作れるよう調整し、その日のうちに共有できるように努めます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	支援内容や状況など日々の気づきを記録し、支援の振り返りや目標に向けての経過状況の把握に役立てている。	明確に事項を把握できる記録の仕方・工夫が必要。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	1	定期的なモニタリング、必要に応じての計画見直し・変更を行っている。	面談時は保護者さま、可能なかぎりご本人の意見や面談に同席できる環境づくりも必要である。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5	2	「レク」「おてつだい」「地域貢献活動」等4つの基本活動をプログラムに組み入れ、活動しています。	地域交流の機会が少ないため、今後の検討課題であります。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	2	日々の生活やプログラム内で自分で選択する「〇〇がしたい」と自発的に発信する機会を設けています。	意思が明確に示せない場合の方法や嗜好の分析を行い、意思決定支援の強化をめざします。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	児童発達支援管理責任者がこどもの状況を支援に携わる職員からの情報を整理し参加しています。	今後も会議等に積極的に参加し、相談支援事業所・関係機関のみならずと密に連携してまいります。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	2	状況に応じて、関係機関や嘱託医に支持を仰いだり、相談できる体制を構築しています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	学校ホームページの閲覧や送迎時、担当教員より連絡や申し送り等を行っている。また必要に応じてはメールにて調整を行っている。	随時、情報共有を行ってまいります。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	6		共生型移行後はありませんが、今後必要に応じて情報共有と相互理解に努めます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1	担当者会議や学校での引継ぎ会議等に積極的に参加しています。	共生型として卒業後の継続した支援やスムーズな移行の実現をめざしてまいります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	3	放デイ連絡会主催の研修会に参加しています。	今後も研修会や交流会に参加し、支援におけるスキルの向上に努めます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	7		地域のこどもとの活動の機会がないため、今後地域とのつながりを深められる活動を検討してまいります。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	6		参加できていません。今後の検討課題といたします。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	連絡ノートや送迎時にその日のご様子や状況をお伝えしています。	日々の連携の中で、一方通行にならないようお話できる場を設け、共通理解を深めてまいります。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	6	ご家族とのコミュニケーションを大切に、日々、話しやすい関係作りを心掛けています。	保護者会の開催や先輩保護者との交流機会の場の提供を検討、また外部研修の情報を共有するなど心掛けてまいります。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時、契約書・重要事項説明書を介して説明しています。	わかりやすく丁寧に説明することを心掛けます。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	個別支援計画書の見直しの際には、保護者様と面談を行い、現在の状況共有や今後の支援について意向をお聞きしています。	ご本人・ご家族の意見を反映させるため、ご都合に合わせた対面・電話・書面など面談方法を考慮し柔軟に対応させていただきます。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	面談後に支援計画書(案)を作成し、内容確認していただき、本計画書に同意を得ています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	1	年2回の面談、また保護者様から依頼・要望があればその都度、対応しております。	常に相談しやすい関係性を構築し、悩みや相談に適切に対応するよう努めます。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	6	年に1回、同法人障がい福祉事業所合同イベントを開催し、ご家族皆さんで参加していただいております。ご家族同士や職員との交流も目的として実施しています。	今年度は共生型事業所として双方の保護者様参加していただける交流会を検討しています。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	苦情解決窓口を設置し、担当者が対応しています。	相談や申し入れを受けた際は、迅速かつ適切に対応するように今後も心掛けていきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	1	日々の活動内容や連絡事項などは連絡ノートを通してお伝えしています。また年に4回合同誌を発行し、活動概要や行事予定なども掲載しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	個人情報関係はすべて鍵付きのキャビネットにて保管しています。また、契約時に個人情報使用にあたる説明を行い、同意を得ています。	個人情報は使用に際し、目的や内容をその都度確認し、了承同意を得たうえで取扱いを徹底いたします。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	スケジュールや役割などを提示するためのホワイトボードや絵カード・写真を使つての視覚的伝達手段を普段の支援に用いています。	個々に応じた伝達手段を見出し、取り組みにつなげていきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2	法人全体として年に1回、地域貢献行事「子どもの広場」を開催。運営事務局として毎年参加している。	利用児童があまり参加できていないのが現状。他にも地域とのつながりを深める活動検討が必要。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	各種マニュアルを策定し訓練を行う際に活用、必要に応じて見直しを行っています。	随時、マニュアルの確認・見直しを行い、内奥を周知したうえで訓練実施に努めます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	BCP業務継続計画を策定し訓練を実施、平時より備蓄倉庫にて必要物品の備蓄、管理をしている。	定期的な訓練の実施・計画の見直し、備蓄品の管理を継続して行ってまいります。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	契約時のアセスメント・年度初めの情報カード作成にて保護者様より詳しい情報を共有し、全職員に周知しています。	内服・発作の状況など常に全職員が認識し対応できるよう徹底してまいります。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	2	保護者様より詳しくお聞きし、対応方法の相談をさせていただきます。可能な限り除去食の提供しています。	医師の指示書や保護者様からの情報を基に細心の注意をはらって対応してまいります。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	安全計画を作成し、毎月設備点検を行い必要箇所の改善・修繕を行っている。また計画に沿った研修や訓練を実施している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	4	安全管理上のご意見など、その都度検討し改善に努めております。	安全管理について安全計画を基に確認していただける機会を設け、ご家族様への周知に努めてまいります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハット報告書を作成し、状況の振り返りや再発防止に向けての策を検討しています。また自由に閲覧できるよう提示しています。	事故等が発生した場合には、状況や要因の記録、職員間の共有、再発防止策の検討をしつかり行ってまいります。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	年度初め、入職時には虐待防止研修を実施。また虐待防止委員を選出し、虐待防止に向けた施策の検討等を行う委員会を開催しています。	研修や委員会など参加できなかった職員へきちんと伝達を行い、職員全員が周知できるよう努めていきます。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	原則、身体拘束は行いません。安全を確保のための行動制限に関しては個別支援計画書に記載し、保護者様と共有しています。	今後とも身体拘束は原則行いません。ご本人の状況や行動を日頃より観察し、保護者様と情報共有したうえで検討し、対応してまいります。	